

飛行機の足元を支える縁の下の力持ち。

ピーエヌ機電（長崎県時津町、橋本進社長、095・882・5181）は、航空機の降着装置に使われる部品を製造する。約20年間、航空機産業向けでは同部品に特化。生産量は21万個を超えているという。

製品は降着装置に使う「ブッシング」と呼ばれる大きささまざまな部品。全日本空輸が運航する「ボーイング777」などが採用。部

ピーエヌ機電

上昇気流に乗れ

航空機産業を支える企業と技術

39

取引先と連携 海外開拓

状や表面処理などの加工手順を委ねるなどの工夫で対応してきた。

2017年度から主要取引先との連携を強化している。その一環

で4月から始めたのが素材の調達方法の変更。そのため新たに素

材倉庫を敷地の一角に設置した。従来の調達

は特殊合金メーカーの

大和合金（東京都板橋区）から機体整備を

実施するSPP長崎エンジニアリング（長崎県

諫早市）を經由してピーエヌ機電が受け取る

流れだった。

い」と意気込む。製造部品と同じく足腰を強化してさらなる飛躍を狙う。航空機の整備・修理（MRO）市場は拡大が予想される。橋本社長は「主要取引先にも取り組む」

加工した部品を安全局（EASA）の確認。現場では二次委託先認証を取得したためだ。

受託増加に備え、人材育成に力を入れる。現場担当者は「かみく

だいて作業を教え最適な段取りを可能にした

が省け、受託量の拡大が期待できるとい

る。メリットが生ま

れた。

効率を高めるため三

者で話し合い、大和合

金から直接受け取り、

倉庫に保管するように

した。その結果、計画

の取り込みが可能にな

る。SPP長崎エンジ

の業務が低減。ピーエ

【企業メモ】社名の「ピーエヌ」はフエニックス（不死鳥）のスペルから。プレス加工とマシニング加工を手がけ、航空機以外ではモーターや発電機に使われるコアの打ち抜き加工を主力とする。九州経済連合会のQAN（九航協エアロスペース・ネットワーク）に参加しており、九州のクラスターの一員として活動している。



安全